

Close Up

医療に、スポーツに熱い速水先生!

私は、スポーツが大好きで、フラッグフットボールの現役のプレイヤーでもあります。また、子どもたち(小学生)のコーチを今年の2月までしており、2014年12月には選手たちと共に日本一になりました。プレイヤーとしては、2014年1月に慶應義塾大学Grand Unicornsの一員として日本一になりました。2015年4月からは自分がお世話になった慶應義塾大学医学部アメリカンフットボール部の助監督として恩返ししています。休日に、プレイヤー、また指導者としてスポーツを楽しむことは、日々の業務におけるモチベーションアップにもつながっていて、特に若いパワーと触れ合うことで元気をもらっています。



▲普段使っているポーチに付けているフットボールヘルメットのピンバッジ



速水先生がプレイヤーとして参加しているフラッグフットボールチーム「慶應義塾グランドユニコーンズ」。2014年はハドルボウルという大会で優勝をはたしました。



フラッグフットボールの指導者としての一面も持ち、少年育成にも力を注いでいます。写真はNFL Flag Final 2014での優勝チームを率いる速水先生(写真中央)。



速水先生愛用の自転車。通勤はもちろん、この自転車で大田区の街を走り回り、在宅医療へと役立てています。荷台につけているバッグには医療道具が詰まっています。

相談窓口

山王リハビリ・クリニック 地域医療福祉連携室では、相談を受け付けております。
お気軽にお電話ください。

TEL:03-5754-2672 / FAX:03-3729-3183

URL:<http://www.sanno-rc.com> / Mail:renkei@sanno-rc.com

ご寄付の受付について

当法人は、リハビリテーション医療・福祉連携事業を通して皆さまの地域に貢献してまいりたいと考えております。
ただ今、ご賛同・ご賛助いただける方々にご寄付を募っております。



医療法人社団 けんせんかい 清泉会
山王リハビリ・クリニック

〒145-0065 東京都大田区東雪谷3丁目4番2号
TEL:03-5754-2672 / FAX:03-3729-3183
e-mail:renkei@sanno-rc.com



医療法人社団 清泉会 山王リハビリ・クリニック

2015年9月

リハビリ・スコop 12号

～人とのつながりを大切に Quality of Link (QOL) 地域医療福祉連携室～



熱い想いで 地域を元気に!

～速水先生の在宅医療～

今回の特集は、大田区の在宅医療を行う、速水聡先生!
在宅医療では、どんなことができるのか?
速水先生が、どんな思いで、取り組んでいるのかをご紹介します!

速水 聡 (はやみず さとし)
山王リハビリ・クリニック 副院長

速水先生の経歴を教えてください。

私は、慶應義塾大学医学部を卒業後、慶應義塾大学病院などに勤務をしていました。それらの病院では、たとえば脳卒中を発症し身体に麻痺が残った患者さんに対する、機能回復を中心としたリハビリテーション医療を行っていましたが、退院と同時にその方との関わりは終わってしまうものでした。当時、私自身は患者さんの退院後のご自宅での生活に強い関心を持っていました。そんな折に、当クリニック院長の森英二先生と出会い、地域密着の診療所体制や在宅リハビリ医療を推進されていることに深く共感し、2005年より山王リハビリ・クリニックでの勤務をはじめました。

在宅医療とは、どういうものでしょうか。

生活範囲がほぼ自宅内である方たちに提供するのが在宅医療です。イメージとしては、患者さんのご自宅を中心にし、その周りの地域にいる医師や訪問看護師、薬剤師といった医療従事者や、地域の介護従事者が患者さんを支えていくというものです。それは、あたくも病院にいるのと同じようなサービスを目指しています。病棟にいれば、医師が回診しますが、在宅医療でも訪問診療、もしくは往診にて医師が患者さんのもとに伺います。当クリニックは、主にリハビリテーションが必要な方や一般内科の管理を必要とする方、自宅にて最期を迎えることを希望される方の在宅医療を行っています。診療の内容に応じて、他の専門医の紹介や、地域にあるサービスの紹介や提供も行います。

訪問診療のご紹介

私は、1日10～15件程度の患者さんのお宅へ訪問診療しています。その移動手段は自転車です。自転車で患者さんのお宅を回っています。そして、伺ったお宅では患者さんの診察はもちろん、最近の調子や、ご本人またご家族が生活の中で何か気になっている点がないかなどの確認も行います。身体診療のみではなく、生活を観るという視点でのリハビリ診療を行っています。その中で、私が専門的に解決できるものは適切に対応あるいは処置しますし、専門外のことと判断すれば、同じ地域にある病院の専門医や場合によっては患者さんの外来主治医と連絡を取り、対応をお願いをすることもあります。患者さん、ご家族が医療・介護の面で困っていることがあれば、可能な範囲でできるかぎりのことをしたいと思っています。



診察と身体動作の確認



内科的な診察を行うと同時に、ご自宅で生活する際の動きも確認。気になる点があれば、新たな治療や自宅の補助器具の提案なども行います。

他専門医の診察内容の把握



速水先生以外に他科の専門医の診察があった場合、その診察内容を確認し、より詳しく患者さんの状態を知るよう努めます。そこで処方された薬があれば確認することも。

関連施設からの情報を診療に活用



患者さんが当クリニック関連施設をご利用の場合、その施設での情報も活用します。取材時は、他施設スタッフが患者さんの尿が気になり、当クリニックに依頼をして検査を実施。その結果をお伝えしました。

ご家族としっかりコミュニケーションも



ご本人、ご家族とコミュニケーションをとることで精神状態の確認。また、地域内で活用できる行政・医療機関のサービスの情報共有も行います。

どんな思い、心がけで取り組まれていますか。

私の考える、リハビリテーション医療は、ひとつひとつの症例をみるのではなく、「人を診る」医療だと考えています。目の前の患者さんを、どうやって社会復帰につなげるか。そのためには身体機能についてはもちろんですし、その方の暮らしや生活をしっかりと知り、理解する必要があります。その中で大切にしていることは、患者さんに常に誠実かつ真摯に向き合うことです。患者さん、ご家族にしっかりと向き合いながら、日々の診療に努めています。



そして、その中で患者さんたちにはあきらめてはいけないということを、私の言葉でお伝えしています。「もう、私は駄目だ」と話す方も時々いらっしゃいますが、あきらめずに何か小さなことでも頑張ることで、その方も気づかなかった新たな楽しみ、発見につながることもあります。そうした発見は生きていくうえで、大切な支えになるかもしれません。「あきらめてはいけない」という気持ちを患者さんに強要はしませんが、私自身がその気持ちを持ち続けて、患者さん、ご家族に寄り添いながら、一緒に歩んでいきたいと思っています。

また、患者さんに良い医療を提供するためには、自分自身のコンディションにも気を配っています。

身体・精神の両面で健全な状態を維持することが、結果的により良い健康状態につながることは周知の事実です。

そういう意味において、いまの職場の環境、一緒に働く仲間たちの存在にはいつも助けられています。良好な職場環境があるからこそ、感謝の気持ちを忘れずに患者さんたちにも真摯に向き合っているのだと思っています。



在宅医療の利用方法

山王リハビリ・クリニックをはじめとした関連施設・サービスのご利用者さんがご希望の場合や、当クリニックのスタッフが妥当だと判断した場合、訪問診療につなげるサポートをします。また、当クリニックへお電話や、ホームページからのお問い合わせいただくことで、ご提供につなげることも可能です。お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

清泉会サービス
ご利用の方

●山王リハビリ・クリニック ●山王リハビリ・ステーション
●ヴィガ・山王リハビリ ●ジップ・山王リハビリ
●山王リハビリ・訪問看護ステーション ●ウェルネスジム山王

当院スタッフに
ご相談
いただくことで

訪問診療

清泉会サービス
ご利用でない方

お電話 **03-5754-2672**
詳しくは

お電話や
ホームページから